

新学習指導要領による地理の授業案

～日本の諸地域—九州地方～

元全国中学校社会科教育研究会会長 高山昌之

1 新しい「日本の諸地域」学習の登場

前回の「世界の諸地域」に続いて、今回は「日本の諸地域」の授業案を提示する。

小見出しに「新しい」と付けた意味は、平成元年版学習指導要領の「日本の諸地域」が形を変えて再登場したということである。

日本をいくつかの地域に区分し、例示された「考察の仕方」に基づいて内容を構成し、それを通して地域的特色をとらえさせるというのが、新しく登場した「日本の諸地域」学習の特色なのである。加えて、動態地誌的な扱いをするよう示された（解説書）ことも、改訂の特色であるといえる。

動態地誌的な取り扱いというのは、かつてのように、自然環境、開発、産業、交通、人口、居住などの地理的事象を地方ごとに繰り返し網羅的に扱うのではなく、地域の特性や新しい動きに重点を置いて地誌を記述する

ということである。これは、内容過多を避ける一つの方法でもあり、網羅的に扱わなくても地域性をダイナミックにとらえることは可能であるという考え方にたっている。



2 九州地方の指導計画

(1) 指導計画作成の意図

地域区分は、「考察の仕方」が七つ示されていることに照らして、伝統的な七地方区分を採用し、ここでは九州地方の授業について考えてみることにした。

学習内容は、“考察の仕方を基にして地域的特色を端的に示す地理的事象を選択し、それを中核として構成すること”という趣旨に基づいて構成した。九州地方では、七つの「考察の仕方」を検討した結果、「自然環境」を中核とすることが最も適切であると判断し、まず、次の内容を選択した。

- ・大陸に近い位置（福岡市と那覇市）
- ・火山と島の多い地形（阿蘇山、リアス海岸、シラス台地、離島、サンゴ礁）
- ・温暖で雨の多い気候（梅雨と台風）
- ・自然災害と環境保全

他の事象と有機的に関連させるということでは、自然環境とのかかわりを重視しながら観光業、農牧業、水産業、工業を取り上げ、これらを通して、九州地方の地域的特色をとらえさせることにした。

学習全体を通して地理的技能を身に付けることについては、地図や諸資料をできるだけ多用し、地域的特色を考察し追究する学習に役立てるよう工夫した。

(2) 指導計画 5時間扱い

第1時 地域差が目立つ自然—本時

- ① 大陸に近い位置
- ② 火山と島が多い地形
- ③ 温暖で雨の多い気候
- ④ 亜熱帯の南西諸島

第2時 自然と位置の特色を生かす観光業

- ① 様々なタイプに分けられる観光地
- ② 観光客の多い県と観光ポイント
- ③ 増加する外国人観光客 (図1)
- ④ 観光地を結ぶ交通

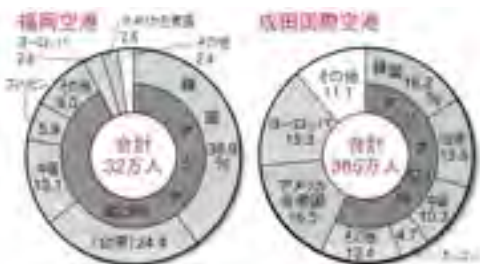


図1 福岡空港と成田国際空港を利用する訪日外国人の国・地域別割合 (2005年) 「もっと知りたい日本と世界のすがた」 p.30④

第3時 自然環境に影響されやすい農牧業、水産業

- ① 北と南で対照的な農牧業
- ② 歴史の古い干拓と期待されるシラス台地の開発 (図2)
- ③ 変化する施設園芸農業 (図3)
- ④ 課題をかかえる西海漁業

第4時 位置の利点を生かした工業

- ① 大陸の鉱産資源を基に立地した近代工業 (図4)
- ② I Cと自動車に特化する工業
- ③ 大陸から伝わった窯業
- ④ 河口の都市や湾奥に散在する工業

第5時 繰り返される自然災害と進む環境保全事業

- ① 繰り返される自然災害

- ② 具体化が進む災害対策
- ③ 緊急課題の環境保全 (図5)



図2 干拓地の断面 地図帳p.76⑤

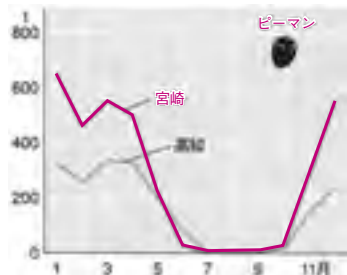


図3 宮崎のピーマンが東京に出荷される時期 (2005年) 「もっと知りたい日本と世界のすがた」 p.33⑦



図4 国際・環境都市北九州市 地図帳p.75②



図5 マングローブ (沖縄県、西表島) 「もっと知りたい日本と世界のすがた」 p.40②

3 本時の指導

- ・本時の指導は、自然環境を中核として地域の特色を見出す初めての学習に当たるため、自然環境そのものがおもな学習内容となる。

(1) 本時の学習項目 「地域差が目立つ自然」

- (2) 本時の目標
- ① 九州地方の自然環境の特色を日本全体の自然の特色と関連付けて考察させ、自然が多様な地域性をつくる基であることを理解させる。
 - ② 地図帳その他の地図や諸資料の収集・読み取りや作図などの地理的技能を向上させ、その定着を図る。
 - ③ これから学ぶ日本の地誌学習について関心・意欲を持たせる。

(3) 本時の展開

| | 分 | 学習内容 | 生徒の学習活動 | 指導上の留意点 | 資料 |
|----|-----|------------|---|---|---|
| 導入 | 10分 | ・大陸に近い位置 | ・資料を見て、福岡市と那覇市の位置を確認し、国内における位置や周辺国との位置関係を確認する。 | ・九州地方の位置的特色が人々の生活にどのようなかかわっているか気付いたことをあげさせる。 | ・地図帳「南西諸島の周辺」(図6) |
| 展開 | 35分 | ・火山と島が多い地形 | <p>・日本全体の地形から見て九州地方の地形の特色と思えるものを指摘しあい、この地方の地形に関する基礎的・基本的な内容を習得する。</p> <p><指摘事項の例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿蘇山のカルデラ ・九州山地と筑紫山地 ・筑後川と筑紫平野 ・出入りの多い海岸線 ・大小数多の離島 ・1200kmにわたって連なる南西諸島 ・サンゴ礁に囲まれた南西諸島の島々 <p>・平坦な沖縄島</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の指摘をまとめ、山地、火山、河川、平野、海岸線、島などの配置、名称、特徴などを整理する。 ・自然地域名称は、白地図に記入させ、知識として定着させるよう配慮する。 ・九州地方の最高峰は屋久島の宮之浦岳であることに気付かせる。 ・日本で島の数が最も多い県が長崎県であることを指摘しておく。 ・サンゴ虫の生育には、常時20℃以上の水温が必要であることにふれておく。 ・沖縄島の最高地点が標高503mであることを地 | <ul style="list-style-type: none"> ・景観写真 ・地図帳「日本列島(1)(2)」(p.63~69) ・「阿蘇・くじゅう」(p.77①) ・地図帳「美しい日本—多様な自然」(p.70~72) ・地図帳「サンゴ礁」(図7) |

| | | | | | |
|-----------------|-------------|---|---|--|--|
| 展 開 (つづき) | | <ul style="list-style-type: none"> ・温暖で雨の多い気候 ・亜熱帯の南西諸島 | <ul style="list-style-type: none"> ・地図帳の気候統計を活用して、福岡、宮崎、名瀬、那覇の雨温図を作り、九州地方の地域による気候の違いを調べ、その理由を追究する。 ・梅雨と台風の現象について、既習事項を確認する。 ・那覇の気温が高温で年較差が少ないのは、亜熱帯気候で季節風の影響を受けるせいであることを、資料から読み取る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・図帳で確かめさせる。 ・九州地方の気候が「太平洋側の気候」と「南西諸島の気候」に大別されることを理解させる。 ・名瀬の年降水量が大変多く、那覇の年平均気温が高いことに注目させる。 ・北九州市と八重山列島の緯度差が10度もあり、南西諸島の気候が亜熱帯気候であることを、特有の植物などから実感させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・地図帳「日本の気候」(p.115)「気候の統計」(p.128)「おもな台風の進路」(図8) ・地図帳「日本列島(1)」(p.63~65) |
| | ま と め | 5 分 | <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄では九州島より梅雨が早く明ける理由を調べ、自分の言葉で説明する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・九州地方の自然の多様性について要点をまとめ、生徒の言語活動をうながす。 | |

- (4) 評価 ① 九州地方の自然環境の特色を理解し、おもな自然地域名称を知識として身につけたか。(知識・理解)
- ② 地図帳その他の資料の活用など地理的技能の向上が見られたか。(技能・表現)
- ③ 日本の地誌の学習に関心・意欲を示したか。(関心・意欲)



図6 南西諸島の周辺
地図帳p.63㉔



図7 サンゴ礁(沖縄県、水納島)
地図帳p.70㉔



図8 おもな台風の進路
地図帳p.116㉔